

糸数アブチラガマ

平和への願い新たに



■アブとは…深い縦の洞穴。

■チラとは…崖のことで、沖繩方言で崖が縦に大きく落ち込んだ所を「大(ウツ)チリハツタ」という。

■ガマとは…沖繩方言で洞窟やくぼみのことを言います。沖繩本島中南部はほとんどが隆起サンゴ礁でできており、数十万年にわたる雨の侵食によってできた自然の洞窟が各地にあります。沖繩戦では、この自然の洞窟が住民の避難場所となりましたが、日本軍の作戦陣地や野戦病院としても利用されました。戦争が激しくなると、ガマは軍民同居のかたちとなって米軍の攻撃的となり、多くの命が失われることになりました。



南城市

入 壕 料

	大 人	小 人	減免対象者
個 人	250円	100円	50円
団 体 (20人以上)	200円	100円	—

※大人(高校生以上) 小人(小学生～中学生) 減免対象者(小人の5割減額)

営 業 時 間

■月曜日～日曜日(年末年始を除く)
午前9時～午後5時
※要予約

交 通

■那覇/スターミナルから市外線51・53系統で約60分
糸数入口/バス停下車、徒歩約10分
■那覇空港より車で約40分
■おきなわワールドより車で約10分

お問い合わせ先

南部観光総合案内センター
〒901-0606
沖繩県南城市玉城字糸数667-1
TEL 098-852-6608
FAX 098-852-6466



沖繩戦の概要



住民捕虜 1945年9月(写真提供:琉球新報社)

沖繩戦とは太平洋戦争の最終段階、1945年3月下旬から7月までの戦いを言います。1941年に太平洋戦争が勃発し、太平洋の島々で劣勢となった日本軍は、米軍が沖繩に上陸すると見て、米軍を沖繩にくざつけにする作戦をとりまします。それは、本土決戦の準備をするための時間稼ぎであり捨石作戦でした。このため、沖繩は唯一の地上戦の場となります。

米軍は1945年の4月1日に沖繩本島の中部に上陸し、日本軍の指令部のあった首里に向かいます。米軍の圧倒的な戦力に、首里の陥落が目前にせまったところで日本軍は南部へ撤退します。米軍の上陸地点から首里城指令部までを中部戦線、首里以南を南部戦線と言います。南部戦線では十数万人の一般住民が巻き込まれ悲惨な結果を迎えることとなります。

6月23日、牛島司令官の自決により日本軍の組織的戦闘は終了しますが、その後も各地で戦闘が続き、米軍が作戦終了を宣言したのは7月2日のことでした。この90日間における沖繩戦で、日本兵6万6千人、沖繩出身兵2万8千人、米兵1万2千人、一般住民9万4千人が亡くなりました。当時の沖繩県の人口は約50万人でしたから、県民の4人に1人が亡くなったこととなります。

生存者の証言
アブチラガマから南部の伊原まで
久保田ハル(南城市玉城出身)
当時23歳

1945年3月24日、私たち(父母、姉、子供たち総勢12名)は、村から割り当てられていたガマ(アブチラガマ)に避難しました。しかし、ガマはもう避難民がいっぱいで、近くの別のガマに避難しましたが、子供を一人失い、祖母の具合も悪くなったのでアブチラガマに移動しました。

5月に入ると南風原陸軍病院から重傷患者が搬送され、前線からの負傷兵も増加するばかりで、ガマ内は負傷兵と住民がひしめきあっていました。ガマの中は大きい白いシラミが多く、着替えも充分になく、同じ服を着ければなしでした。

近くに避難場所を探しましたが、どこもいっぱいで南部に移動せざるを得ませんでした。途中、避難していたガマも兵隊から追い出され、ススキの茂みに身を潜めていた所に艦砲弾が落ち、父母、姉2名、姪5名の計9名をその場で亡くしました。生きている限り、あの悲惨な沖繩戦は忘れることはないでしょう。